

平成 28 年度 第 2 回長浜市総合教育会議 議事録

I 日 時 平成 28 年 11 月 11 日（金曜日）10 時 30 分～12 時 15 分

II 場 所 長浜バイオ大学 命江館 1 階 大会議室（長浜市田村町 1266 番地）

III 出席者

【構 成 員】藤井勇治市長、北川貢造教育長、井関真弓教育委員、
西橋義仁教育委員、川口直教育委員、七里源正教育委員、
西前智子教育委員

【長浜バイオ大学関係者】若林浩文理事長

【オブザーバー】大塚義之副市長

【事 務 局】松居総合政策部長、米田総合政策部次長兼総合政策課長、
野村総合政策課課長代理、勝木長浜学びの実験室コーディネーター、
板山教育部長、改田教育委員会事務局次長兼教育総務課長、
横尾教育指導課長、川瀬幼児課長、中川すこやか教育推進課長、
伊吹教育総務課副参事、土田教育改革推進室副参事、
ほか担当職員（3 名）

【議事進行】松居総合政策部長

【傍 聴 者】なし

【報道機関】なし

IV 内 容

1 開 会

2 市長あいさつ

（要旨）

- ・北川教育長、教育委員の皆さま方におかれては、日ごろから、子ども達の教育の充実と発展、そして健全育成のために大変なご尽力を賜っていること、心から感謝申しあげる。
- ・「長浜曳山祭り」を世界中の多くの方に知っていただきたく、文化庁と協議を行ってきたところ、文化庁からの推薦もあり、ユネスコ無形文化遺産への登録勧告がなされた。子ども歌舞伎と各山組の保存と継承に向けた取組が高く評価されたもので、11 月 28～30 日にエチオピアで開催される政府間委員会で正式に登録が認められるとのことである。
- ・今回のユネスコ登録を全市民の誇りとして、本市の教育や観光振興につなげて

いきたい。

- ・若林理事長におかれては、長浜バイオ大学と本市との各種連携事業、とりわけ今回の会議開催にあたり、ご理解とご協力を賜り、心からお礼申しあげる。
- ・日々の市政運営の中で、私が常々思うことは、「ひとづくり」や「人材育成」こそ「まちづくり」の根底にあるということである。
- ・本年、ノーベル医学生理学賞を受賞された大隅教授は、「サイエンスを社会全体で支える意識を形成することが、今の日本に重要」と発言されている。
- ・本市においても、現在策定中の「長浜市総合計画」において、教育環境の充実を図ることを重点プロジェクトに位置づけ、地域社会全体が連携を深めることで、子ども達の創造性や探究心・才能を伸ばす環境を創っていきたいと考えている。
- ・また、昨年策定した「長浜市まち・ひと・しごと総合戦略」では、「地元大学の機能強化」を掲げており、長浜バイオ大学に今年竣工された「命翔館」には、全国的にも珍しい、大学の施設内に地域の子どもの達が学ぶための「長浜学びの実験室」を整備いただいたこととあわせ、本市として実験器具の整備を支援させていただいた。
- ・高い専門性を有する長浜バイオ大学の協力のもと、大学の有する人的・知的資源を地域の教育に還元する「理系人材育成事業」は、地域ぐるみの教育のモデルケースであると考えます。
- ・これらを踏まえ、本日は「理系人材の育成」を議題としたいので、未来を担う子ども達のため、忌憚のないご意見を賜りたい。

3 関西文理総合学園（長浜バイオ大学）理事長あいさつ

（要旨）

- ・「長浜曳山祭り」に関して、本学では、「長浜曳山祭り」本日の4月15日を一斉休講とし、学生が地域行事に参加できる環境を整えようと考えている。
- ・大学の使命は「教育」・「研究」・「社会貢献」であり、その中の「社会貢献」として、地域の教育との連携を図りたいとの思いから、今年2月に竣工した「命翔館」の1階に「長浜学びの実験室」を整備した。本学は、周囲に琵琶湖があるなど、実験を行いやすい恵まれた環境にあることから、地域の子どもの達に実験の場を与え、その体験を通して、感性を磨いていただきたい。
- ・建物や設備の環境は整ったが、今後は運用面が課題となる。来年あるいは再来年には「長浜学びの実験室」を年間30回くらい、夏休みの「親子科学講座」は今年よりも実施回数を増やせるよう、長浜市と協力し、人材をはじめとした実施体制の充実を図りたい。
- ・本学としても「理系人材の育成」といった地域の熱い思いや期待に応えることができるよう、協力・協働していきたい。
- ・本日は、実際に「長浜学びの実験室」を見学いただき、ご意見をいただければ

と思う。

4 議 事

「理系人材の育成について」

事務局から、配布資料に基づき、「理系人材育成事業」の概要及び「長浜学びの実験室」の現状について説明を行った後、びわ中学校 3 年生が受講している様子を見学し、続いて、意見交換を行った。

構成員から出された意見や感想は、次のとおり。

〈意見・感想：教育委員〉

理系人材に限らず、子ども達に力をつけてもらうため、小中学校では様々な取組をしている。私は経験上、いかに子ども達が「本物」に触れることができるかが大事だと思っている。本物に触れると、感動する。感動するとそれが将来の意欲へとつながっていく。今回、「長浜学びの実験室」を見学させていただいたが、理科の実験を通して本物に触れることで、子ども達は何ものにも代えがたい感動を受けていた。それぞれの将来に役立って欲しいと思う。

また、子ども達の感想の中にあつたとおり、長浜バイオ大学の存在が近くなったことも、一つの成果だと思う。大学教授による最新の実験器具を使用した授業を受け、大学生の勉強する姿を見ることで、子ども達の学習意欲を高める大きなきっかけになったのではないかと。

長浜バイオ大学側の課題として、大学の授業等があるにも関わらず、教員を複数名配置いただいていること、一方、小中学校側の課題として授業時数の確保などが挙げられる。互いに課題を持ちながらも、一つの効果を上げていくということであるから、今後のコーディネーターの活躍に期待したい。

〈意見・感想：教育委員〉

私も同じ意見になるが、大学の施設内に入り、大学教授から専門的な授業を受講したことは、感想として書かれている以上の貴重な体験をしたのではないと思う。小学生にとって、大学はまだまだ遠い存在ではあるが、やがて中学生・高校生になり、大学等進路選択をするときに役に立つのではないかと。また、進路に対する展望も広がるのではないかと。

現在、「長浜学びの実験室」を受講したのは数校とのことだが、いずれは、市内全ての小中学生に、このような体験をしていただきたい。

〈意見・感想：教育委員〉

国際数学・理科教育動向調査における「理科の勉強は楽しいか？」との質問に対し、日本の中学生は世界の中学生に比べて肯定的な評価が少ない結果が示されている。しかしながら、良い教育さえ行えば、評価が良くなるのではないかと考

えられる。小中学校の教育現場では、予算や人材の面から難しいかもしれないが、今回、長浜市が長浜バイオ大学と連携したことで、子ども達は恵まれた環境で教育を受けることができると思う。

また、ノーベル賞を受賞した大隅教授が「役立つを求めな。基礎的な実験を行う人材を求めよ。」と発言されている。今後、日本人がノーベル賞を受賞することが難しくなるとの危惧も示されているが、長浜バイオ大学での教育が、受賞の一助になるのではないかなと思う。

今日の遺伝子の実験でも、実験を経験することが大事なので、長浜市と長浜バイオ大学とが連携し、このような取組を行うことは非常に有意義なことだと感じた。

〈意見・感想：教育委員〉

土曜学び座で長浜バイオ大学の講座を経験したことがあるが、地域の小学生がいきいきと講座を受けていたことを覚えており、学校とは違った、このような教育の場があってもいいと感じた。

実験を行う過程で、何度も挑戦し、「できた」という実感が、問題解決能力や科学的な考え方に発展していくのではないかな。また、大学教授や学生が研究している様子を子ども達が見ることで、理科や大学の魅力が見えてくるのではないかなと思う。

来年度から本格実施とのことだが、なぜ、これだけ素晴らしい取組を 20～30 回に限定しているのか。

そして、この事業の目的に「将来の地域の産業や科学技術を担う人材」とあるが、地域に限らず、「世界の産業や科学技術を担う人材」とすることができるのではと思った。

〈理事長〉

教育に関することなので、しっかりしたカリキュラムや実施体制を築くことが大切だと考えている。また、大学教授も大学の授業や実験・実習を毎日行っていることから、限られた人材、限られた時間の中で、「長浜学びの実験室」等を拡充できる体制を模索している。

冒頭でお話したとおり、今後、長浜市と協力し、体制の確立・強化を図りたい。

〈意見・感想：教育委員〉

私の子どもは理科が好きだが、学校の授業では、材料を見ただけで実験結果が分かってしまうこともあり、結果がわからない実験をしてみたいと話している。そのため、小中学校の授業と大学の実験を上手に連携されているこの取組を、多くの子ども達が体験できたらいいと思った。

また、中学校によっては、男子生徒が入れる文化系の部活動が少ないと聞いている。どのような形になるかは分からないが、科学部のようなものがあってもよ

い。

〈理事長〉

長浜バイオ大学としても、小中学校の部活などで協力できることがあれば、教育委員会と相談する必要があるが、例えば、CELL 部という学生の部活動の中で、土日の出前授業のような形で協力できるのではないかなと思う。しかしながら、部活動に参加する学生数の問題や学生自身の学業の関係もあり、毎週休日に開催することは難しい。

本学への要望があれば、長浜市やコーディネーター、本学の学長と相談のうえ、実施していきたい。

〈意見・感想：教育委員〉

長浜バイオ大学が持つ素晴らしい業績を、一般市民にも共有するため、長浜市の情報誌などで分かりやすく提供できないか。コラムのような形ででも載せていただければありがたい。

その他、個人的な希望になるが、長浜の子ども達が入学しやすいように募集の地元枠を創設してはどうか。

〈意見・感想：教育長〉

長浜バイオ大学は創設当初から「地域貢献」を掲げ、様々な地域貢献事業に取り組んでおられるが、行政だけでなく市民も、あらゆる分野において長浜バイオ大学との連携をより深めていくことができれば、大学を核とした長浜市全体の発展につながるのではないかと考えている。

子ども達の感想に「とにかく楽しく、おもしろかった」とあったが、子ども達はレベルの高い講義を受講したことで、多くのことを学んで帰ったのではないかなと思う。

本日のテーマは「理系人材の育成」ということだが、今の日本は、自然的体験を経験しづらい社会であり、理系人材が育ちにくい状況にあるのではないかと危惧している。そういった点で、今一度、教育のあり様を考えなければならない。

私が子どもの頃、すぐそばの「さいかち浜」で泳いだ際に、物の見え方や水温の変化など様々な自然体験をしたことが、学問への出発点となった。

教育委員会としても、教育委員会事業として「長浜学びの実験室」をもう一度しっかりと考えていかなければならない。本市の理科教育だけでなく、教育全体についても改めて考えさせてくれる、良い会議になった。

〈意見・感想：市長〉

「長浜学びの実験室」でびわ中学校の生徒が、いきいきと講義を受けている姿を見て、大変うれしく思った。

現在、県内には 13 市 6 町あるが、大学を持つ自治体は少なく、その中で、本

市には長浜バイオ大学と滋賀文教短期大学があることから、高等教育の環境に恵まれており、また各大学も地域との連携に積極的に取り組まれている。

大学が立地する自治体として、長浜バイオ大学としっかり連携し、本市の特徴を生かしていきたいと考えている。とりわけ、長浜バイオ大学は、「地域に開かれた大学」と理事長が方針を掲げられ、中心市街地への「まちなかキャンパス」の設置や、NPO と協力して「健康フェスタ」を大学の敷地内で開催されている。

今回、理事長から「長浜学びの実験室」の運営に関する課題についてお話しいただき、市としても長浜バイオ大学と協議を重ね、「長浜学びの実験室」を充実・発展させることで、子ども達の笑顔に役立てていきたい。

5 その他

次回会議は、来年 1～2 月頃を予定。

6 閉 会

12 時 15 分 閉会